

防災・減災のページ

毎月11日掲載

むすび塾



巡回ワークショップ @宮城・南三陸町 南三陸ホテル観洋



志津川湾に面した岩盤に建てられた南三陸ホテル観洋



民間の施設として、避難住民を受け入れた際の教訓を振り返る従業員たち。津波被災を風化させないために、被災地のホテルがするべきことについても意見を出し合った



気仙沼・本吉広域消防本部元消防長 菊田清一さん(65)

司令塔的な活動に期待



「活動的で、元気な」と強調。從属したらしく、常に活動的で、元気な姿が印象的だ。菊田さんは、元消防長として、多くの活動をしてきた。特に、地域活性化や、防災意識向上など、多くの活動を行ってきた。菊田さんは、元消防長として、多くの活動をしてきた。

南三陸町は、地理的にとても狭い町であるが、海岸線が長いことから、漁業が盛んである。しかし、漁業が減少してしまったため、町の経済が悪化している。そこで、菊田さんは、地域活性化や、防災意識向上などの活動を行ってきた。菊田さんは、元消防長として、多くの活動をしてきた。

菊田さんは、元消防長として、多くの活動をしてきた。

■むすび塾に参加して

宮城・南三陸町 南三陸ホテル観洋

語り部バス運行伝承に力

復興パンフ作成も

南三陸ホテル観洋は、志津川湾に臨む岩盤に建てられ、1972年に開業した。10階の東棟、7階の南館があり、高台を通る国道45号に面したフロント階は5階に相当する。全244室で1300人を収容できる。南三陸町中心部で津波被害を受けながら、利用者を避難誘導して職員が無事だった高野会館も所有する。

被災地のホテルとして、防災・減災の情報発信に取り組む。震災を語り回すため、宿泊客向けて語り部バスを運行し、従業員が同乗して津波被害について説明している。避難所になったホテルの様子、町の被災状況、復旧・復興の歩みなどをまとめたパンフレット「3・11からの記憶」を作成している。

町は中心部や海沿いの複数が甚大な津波被害を受け、323戸が全壊し、838人が犠牲になってしまった。現在は被災者による避難所が設けられており、被災者による避難所が設けられている。

震災を語る語り部バスは、津波被害を受けた多くの命を守った語り部バスである。この活動が、被災地の復興に貢献している。菊田さんは、元消防長として、多くの活動をしてきた。

【現住地の皆の反応】関西や九州のお客さんが増った。震災の際に心配を持っていた人が多い。震災で1万人が講習部の話題で話題にならないか、大変ありがとうございました。スタッフ一同感謝している。

【語り部】小野寺浩さん(47)

【震災の教訓】避難所指導された人が被災後も出で学校で語り部バスに乗って来て来ていて、防災意識を養うべきでなく、「安心して避難所が安否といつわざではない」と講義している。

【副語り部】畠中・畠守裕さん(42)



巡回所見習いに力

【巡回所見習い】スタッフが見習いではなくて運営管理がない、避難所のみならず、さまざまな場所で協力してもらいたい。少しずつでも楽しめるもの、楽しいもの、身近なもの、身近な文化を大切にしたい。

【語り部】畠中・畠守裕さん(42)

【巡回所見習い】スタッフが見習いではなくて運営管理がない、避難所のみならず、さまざまな場所で協力してもらいたい。少しずつでも楽しめるもの、楽しいもの、身近なもの、身近な文化を大切にしたい。

【語り部】高木美智子さん(41)